

# シンポジウム 墨



入場無料・申込不要

奈良は日本一の墨の産地。  
その奈良で全く画期的な墨の研究が始まった。

日時：平成22年6月5日（土）10:00～16:30  
会場：奈良女子大学記念館2階

## プログラム

「中国における明墨・清墨の収蔵と研究」

松尾良樹（奈良女子大学古代学学術研究センター特任教授）

「MALDI-MS法による考古資料に用いられた動物膠のコラーゲンの種の同定」

中沢 隆（奈良女子大学教授）

「和膠の再興を目指して」

山内 章（元興寺文化財研究所彩色資料修復室室長）

「考古遺物としての墨資料」

山路直充（市川市立市川考古博物館学芸員）

「天然フラレン・墨・正倉院御物」

大澤映二（豊橋技術科学大学名誉教授）

主催：奈良女子大学 古代史・環境史プロテオミクス研究創成事業本部

共催：『文化財に含まれる膠の自然科学分析による古代文化史及び技術史の解明』プロジェクト  
（「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」採択、代表：宮路淳子）  
『東洋漆工史研究会』（代表：北村昭齋）

奈良女子大学古代学学術研究センター

後援：（社）平城遷都1300年記念事業協会

問い合わせ先 〒630-8506 奈良市北魚屋西町

奈良女子大学 古代史・環境史プロテオミクス研究創成事業本部  
tel&fax:0742-20-3563 E-mail:proteomics@cc.nara-wu.ac.jp

写真：奈良女子大学所蔵「鏡水齋墨」

文人自製墨とは、文人が自分用に特別注文で作らせた墨。品質、デザインとも優れた作品が多い。裏面に「随園居士袁枚製于小倉山房」の彫銘がある。袁枚（1716～1797）は、乾隆4年（1739）の進士。江蘇省諸県の知事を歴任。同20年（1755）父の喪に服し、官を辞す。以後、在野の文学者として活躍。著書に『小倉山房集』（82巻）。随園はその号、小倉山房はその書齋の名。「嘉慶年製」の銘があり、1796年から1797年に作られた文人自製墨の代表作の一つ。